

E-18 台所の設備ならびに環境の総合評価に及ぼす要因について（第2報）

県立鹿児島東高 ○有橋裕子

奈良女大家政 梁瀬度子 花岡利昌

目的 本研究では、台所の設備や環境の総合的な評価において、最も重きをおく要因にはどのようなものがあり、かつ、各要因間相互にはどのような関係がみられるか等について明確にしていくことを目的としたが、第1報（第29回総会において発表）につづいて本報では数量化による分析処理を行うことにより、クロス集計の結果分析によって得られた傾向などを数量的に明らかにしようと試みた。

方法 奈良市における主婦を対象としたアンケート調査によるが、その実施概要は第1報に準じる。数量化の方法は、数量化理論第Ⅱ類における多変量解析を採用した。

結果 結論としては、現状の台所の多くは「狭いこと」と、そのことからくる「収納スペースの絶対的不足」という大きな問題をかかえており、それが作業性の低下をまねいている大きな原因であることが指摘されている。数量化による分析結果を要約すると、台所の設備や環境に関する総合評価に際して、その作業主体者である主婦が、最も重きをおく要因としては、(1)台所の広さ (2)台所のタイプ (3)台所の設計や設備等の計画主体者などがあげられ、また、特に「狭さ」「収納スペースの不足」「台所の室内気候の条件の劣悪さ」などの台所における問題点の有無が、評価の要因として大きく影響を及ぼしていることがわかった。